

令和元年度 第2回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和元年12月16日(月)午後7時00分～9時00分
場 所	磐田市役所本庁舎4階 大会議室
出席委員	池上 重弘会長、水野 勲委員、藤田 允委員、鈴木 ゆみ委員、 渡邊 カルロス委員、平野 利直委員、田中 琢問委員、 青島 彰委員、伊藤 知子委員、鈴木 啓和委員、清水 みゆき委員
事務局	地域づくり応援課 職員6人
オブザーバー	多文化交流センター3名、学校教育課

[会議内容]

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 市内外国人数等の状況【資料1】

(2) 第1回協議会の振り返りと課題等への対応状況【資料2】

4 協議事項

(1) ワークショップ ※ワークショップについては【資料3】

・外国人住民の地域社会への参画について【資料4】

・外国人児童生徒への支援について【資料5】

(2) その他

5 閉会

[資料内容]

【資料1】 市内外国人数等の状況

【資料2】 第1回協議会の振り返りと課題等への対応状況

【資料3】 ワークショップグループ分け・配置

【資料4】 外国人住民の地域社会への参画についての現状

【資料5】 外国人児童生徒への支援についての現状

[会議概要摘録]

1. 池上会長あいさつ

・10月26日から11月4日まで、静岡文化芸術大学でジュニオール前田さんの写真展『出稼ぎブラジル』を開催した。出稼ぎで働く男たちの写真が多いなか、『見守る』とタイトルされた作品が印象深い。母が跪き、セーラー服を着た女の子にバックを託している姿を捉えた作品であるが、母親の子どもへの思いが伝わる写真である。

・地域の学習支援に、学校生活を頑張っている先輩が加わることで子どもたちの見本となり、次の世代に繋がっていく、「斜めの連鎖」が磐田市では機能している。全国区

の素晴らしい取り組みである。

・浜松市では経済同友会の有志が外国の高度人材を獲得するための勉強会を活発に開いている。経済界がアクティブに動いていることは、磐田市とも共有したい。磐田市も、うかうかしてられない。

・福井県越前市のシンポジウムに参加した。当市は多文化共生に積極的ではなかったが、市長が本気になって取り組んでいる姿が窺えた。そこで磐田市のことも話したが、すでに色々なところで話している内容である。磐田市は多文化共生において次の段階に進んで欲しい。今年度から若い委員も加わっているため、今回のワークショップでは、次のステップに繋がる話し合いをして欲しい。

2. ワークショップ

① テーマ別のグループ意見のまとめ

ア：テーマ1 『外国人住民の地域社会への参画について』

●グループA

現状

- ・平野ビニール工業では、外国人従業員の方が地域の草刈りや防災訓練に参加している。自主的に楽しんで参加をしている。外国人には自治会活動について、自転車の乗り方を教えるように丁寧に伝えることが大事。
- ・技能実習生に対し、3年間の短い期間の中で日本語や文化等いろいろ学んでもらうことが企業の役割として大事なこと。
- ・国際交流協会では、「多文化防災の会」を行っている。また「豊田ふれあいフェスタ」のなかで、やさしい日本語のPRを行っている。
- ・9月の防災訓練は、町内別で開催されるため外国人が個人で参加がしやすい。
- ・外国人が防災訓練に参加する際、支援団体（国際交流協会）と事前に調整する。参加するにも役割があることが重要。計画から参加が必要かも。
- ・交流センターまつりで、外国人がダンスに参加。地域の方も盛り上がった。
- ・地区と高校のつながりは難しい。小中学校とは違う。

課題

- ・避難所の運営は、日本人が外国人の受け入れに積極的にならなければいけない。
- ・日本語教室では、ブラジル人の参加が多いが、フィリピン人の参加も充実をさせたい。
- ・自治会のなかで役員を任せるのは難しい。定住すれば可能かも。
- ・今年度は、防災訓練と日本語検定試験と重なったため、参加させることができなかった。
- ・企業で一斉に参加したら受ける自治会が対応できるか不安。

方法

- ・防災訓練では外国人にも具体的な役割を与えれば、やりがいをもって参加できる。
- ・自治会のことを丁寧に伝える。ごみの捨て方と一緒に伝える。
- ・自治会の年間行事が見える化して伝える。
- ・受入教育に自治会のことも入れ込む。
- ・外国語のチラシがほしい。企業でも説明できる。

●グループB

現状

- ・企業であれば、外国人従業員に対し、地域活動への参加を促すことができる。
- ・どのような訓練し、どのような方法で告知をしているかが重要。
- ・交流センターで行っている通学合宿にブラジル人の子どもも参加している。
- ・外国人がバレーボールをやっている場へ顔をだして、防災訓練へ参加してもらおう説明をした。
- ・外国人のリーダーが生まれると周知しやすい。
- ・外国人ということで回覧版が回されないことがある。

課題

- ・防災訓練の参加率が低い。通訳者がいても参加しない。どう取り組んでいくか
- ・地域コミュニティをどう作るか。日本人と外国人が溶け合っていけるようにしたい。日本人であいさつをしない人がいる。
- ・派遣会社に勤めている外国人と連絡が取りにくい。
- ・リーダーの人を一人にしない。またリーダーを決めるのが難しい。伝達する人の存在が重要。

方法

- ・地域活動に参加するメリットをつける。例えば、防災訓練の時に、領事館と連携してパスポートの更新ができるようにするなど。
- ・あいさつ運動をし、日本人と外国人で顔が見える関係を作る。
- ・通知をポスティングする。継続していく伝達することが必要。やっていることを知ってもらう。
- ・伝達方法に、SNSを活用する。ラインよりフェイスブックが良い。
- ・中学生やグリーンキッズ（ラップグループ）を活用する。
- ・参加しない人のグループを作る。強制ではないが翌年の参加を促す。

イ：テーマ2『外国人児童生徒への支援』

●グループA

現状

- ・リーマンショック時と比較し、外国人数は減少。しかし、就学している子の数は増えている。

課題

- ・行政の窓口に来られる方は既に不安を抱えてくることが多い。言語・心の不安・お金。日本に渡るだけで多くの金を使っている。
- ・学用品について、国際交流協会や多文化交流センターに協力してもらっているが、すべてを賄えるわけではない。そのため、地域の協力による学習支援の広がりが望まれる。
- ・入学前の子どもに対する支援をより充実させたい。
- ・今後、ベトナムやミャンマーなど家族を呼べる外国人が増加すると思われる。ベトナム語は静西教育事務所で対応していない。
- ・留学生も法律が変わって増えている。日本人と一緒に就職活動をして、日本で家族を築く。

方法

- ・加配教員の充実
- ・磐田市ではプレスクール（入学する前に、希望する子に学校体験をしてもらう。）を検討している。

- ・プレスクールでは、学業や進学などの成功体験の話をしてもらうことを考えている。何か1つでも自信を持ってくれば、今後の励みになると思う。
- ・会社で許可をもらって、保護者もプレスクールに参加できるようになれば。
- ・各子どもにあった指導ができれば、結果的に育つのでは。

自由意見

- ・支援学級や講師に丸投げすると、劣等感をもってしまう外国の子もいるかもしれない。
- ・磐田の学校へ通うことによって、スキルアップできた、という事例ができれば良いと思う。
- ・技能実習生を増やすのはよいが、通訳の数を増やすなど対応策をとらないといけない。多言語に対応することは可能なのか。かなり厳しいと思う。
- ・子どもは半年もいれば、日本語を覚える。しかし保護者はそうでもない。
- ・家庭での状況が学校に反映されるため、保護者とのコミュニケーションが必要。
- ・支援学級 30 人の内 13 人が外国籍。言語の問題のために、学力が高まりにくい。
- ・ある程度日本語がしゃべられるようになってくれば、フォローがし易い。

●グループB

現状

- ・親御さんに関する相談が多い。困っていること（お金の問題、言語など）に対して、協力体制が必要。
- ・外国人も日本人も困っていることは共通。
- ・幼稚園では、入園に際し翻訳されたパンフレットを使用。既に入園している方に対しては、通訳で対応している。
- ・市全体でどれくらいの外国人の子どもが幼稚園に通っているかデータを出し、どれだけの支援が必要かを調べている。プレスクールが実現すれば、スムーズな学校生活が送れるのではと考える。

課題

- ・学習支援を夏休みで集中して行う取り組みが、もっと広がってほしい。
- ・旧磐田地区の放課後児童クラブでは外国人が 30 人位。入学前の子どもに対する支援がない。
- ・東部小学校で外国人の子どもが増加したため、多文化交流センターを設立したが、磐田西小学校と磐田中部小学校へは、週 2 回、出向いて活動をしている。
- ・普通に学校に通える子もいれば、特別支援学級に通う外国の子もいるため、多様な支援が必要。
- ・保護者への意識の啓発が必要。
- ・多文化交流センターから離れた場所に住んでいる子どもへの支援が困難。

方法

- ・加配教員の充実
- ・通訳者の増員
- ・保護者への意識啓発

自由意見

- ・プレスクールが実現すれば、助かる。何もわからない状態で学校行く子どもが多いと思うので。
- ・浜松では、プレスクールを実施や、保護者への説明会を行っている。

② 池上会長からのコメント・総括

ア：テーマ1『外国人住民の地域社会への参画について』

- ・顔の見える関係は古くて新しい課題。地域コミュニティをつくるうえで重要。
- ・あいさつは、定住外国人にとって言葉の問題よりも心の問題。日本人の方から一歩を踏み出してほしい。
- ・グリーンキッズ（ブラジル人、ペルー人のラップグループ）の様に、若者のリーダー的な存在が地域活動に参加すれば、若い人も参画する。そうした仕掛けづくりが重要。
- ・企業が技能実習生の背中を押して地域活動に参加させていることは、先進的。現在進行の企業アンケートにより企業との連携を深めてほしい。

イ：テーマ2『外国人児童生徒への支援』

- ・磐田の弱点として感じたことは、プレスクールがないこと。集団登校、和式トイレなど、日本人にとって当たり前のことに慣れてもらうことが重要。
- ・浜松では、大学生が運営に関わっているプレスクールがある。活動が10年継続しているため、当初プレスクールに参加した外国人児童が、現在は大学生となって、運営に参加している事例も生まれている。
- ・プレスクールは、外国人比率が高い幼稚園・保育園のある地域より、エアポケットになっている地域を対象に、試験的に実施することも良いのでは。
- ・教育に関心を持つ保護者は少なくないが、仕事と調整を付けることが困難なケースがあるため、どのようなサポートができるか検討する必要がある。

※ワークショップで議論して出た意見を基に、課題解決に向けた具体的施策をプランの施策と調整しながら検討していく。